

カキ中間台木の特徴

福島県農業試験場会津地域研究支場
平成14～16年度試験研究成績概要

1 部門名

果樹－カキ－形態・様相
分類コード 04-05-05000000

2 担当者

勝又治男・野上紀恵・永山宏一

3 要 旨

カキ「会津身不知」に対する中間台木の影響を明らかにした。試験は1995年にカキ「西村早生」実生の地上10cmの位置で中間台木を切り接ぎ、翌年中間台木に「会津身不知」を切り接ぎした。試験区の中間台木と長さは「舎谷柿」実生が20cmと30cm、「小枝柿」15cm、「しだれ柿」15cmで、対照区は「西村早生」実生に「会津身不知」を切り接ぎ、翌年切り戻した。

- (1) 「舎谷柿」実生20cm及び30cmは樹高及び樹冠容積が対照区より小さく、わい化効果が認められた。幹断面積当たりの収量は「小枝柿」、「しだれ柿」より劣った。果実是对照区より大きく、着色は対照区に次いで優れていたが、果実汚染が多かった。対照区は欠木が認められなかったが、「舎谷柿」は衰弱や強風による倒伏で供試樹の1/3が欠木となった。
- (2) 「小枝柿」の樹高及び樹冠容積は対照区を上回り、幹断面積当たりの収量が最も多かった。果実の条紋や汚染の発生は少なかったが、果実是对照区より小さく、着色は不良で熟期が遅かった。
- (3) 「しだれ柿」の樹高及び樹冠容積は対照区と同程度で、幹断面積当たりの収量は「小枝柿」に次いで多かった。果実の大きさは対照区と同程度で果実汚染は「小枝柿」に次いで少なかったが、着色は対照区よりやや劣った。生育のばらつきが大きく、供試樹の1/3が欠木となった。

4 その他の資料等

なし